

100 世界遺産の旅 (83)

慶長遣欧使節団

1613年10月28日、伊達政宗の命により支倉常長を団長とした使節団が、石巻を出航した。一行は、メキシコ西海岸のアカプルコに上陸した後、大陸を横断し、カリブ海のキューバへ向った。そして、1614年7月23日にハバナへ上陸した。

その来航を記念して、団長の支倉常長像が、エントラダ運河の畔に建てられている。日本庭園の中に在る銅像は、キューバと日本の友好関係のシンボルになっている。支倉常長が掲げる右手は、遠く東方のローマを指しているのであろう。また、表敬訪問した総督官邸は、道路を隔てた所に位置する。



支倉常長像、ハバナ、キューバ、2018年2月

慶長遣欧使節は、徳川家康によって裁可されたが、伊達政宗は、スペインとの同盟を模索し、倒幕を企てようとしたと云われる。その企みに勘付いた家康の胸中は、穏やかではなかったと推察する。

出発は1613年、帰国は1620年、家康が他界したのが1616年である。家康は「徳川家・未来永劫の安堵」を念じ、北の守り神として日光東照宮建立の遺言を残した。2代目将軍秀忠は、家康の遺意を受け継いで、1617年、日光東照宮を完成させた。



旧総督官邸、ハバナ、2018年2月



エントラダ運河よりカリブ海、2018年2月

キューバ訪問後、使節団は、スペインへ向かい、セルビアを経由して首都マドリッドに到達した。そこでフェリペ3世に面会した後、イタリアを訪問し、バチカンでローマ教皇パウロ5世に謁見した。ただ、1612年に日本では「慶長の禁教令」が発せられていたため、スペインとの交渉は、不成功に終わった。帰路、使節団は、スペイン・アンダルシア地方のコリア・デル・リオに滞在し、そこで複数の随行者が離脱して現地に止まった。現在、その子孫でハポン(Xapon=日本)を名乗る市民が、600人ほど確認されている。そして彼等の乳児のお尻に蒙古斑が、現れると聞く。支倉常長等は、メキシコ、フィリピン・マニラを経由して、1620年に帰国した。



天正遣欧少年使節像、長崎県大村湾、2016年10月

時代は、少し遡るが、日本よりローマへ派遣された使節団はもう一つあった。それは、織田信長が、「本能寺の変」で襲撃された1582年の天正遣欧少年使節(～1590年帰国)である。慶長遣欧使節と違い、インド洋、喜望峯経由でスペインに到着し、その後イタリアのローマへ入った。バチカンでは教皇グレゴリウス13世に謁見し大歓迎を受けた。

海上の長崎空港より架橋を渡った大村市の西岸に、その顕彰の像があり、伊東マンショを初め全員が、ローマのバチカンがある西方を臨んでいる。

天正、慶長両使節団とも、当時の禁教令が故、末路は悲惨だったようだ。天正遣欧の少年達の中には、棄教した者、キリスト信者を貫き殉教した者、また信仰を求め海外で生涯を終えた者もいる。